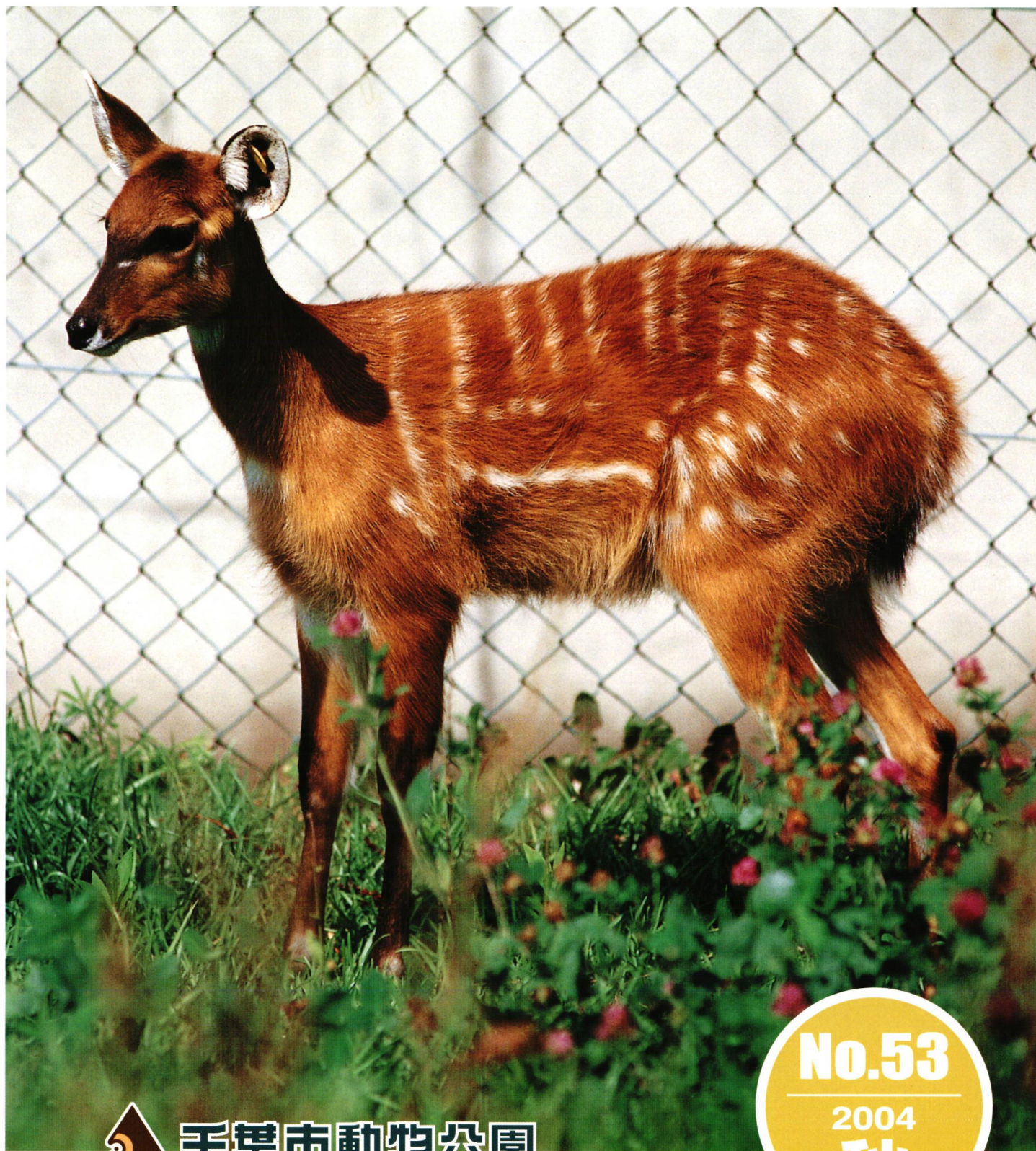


どうぶつこうえんニコース



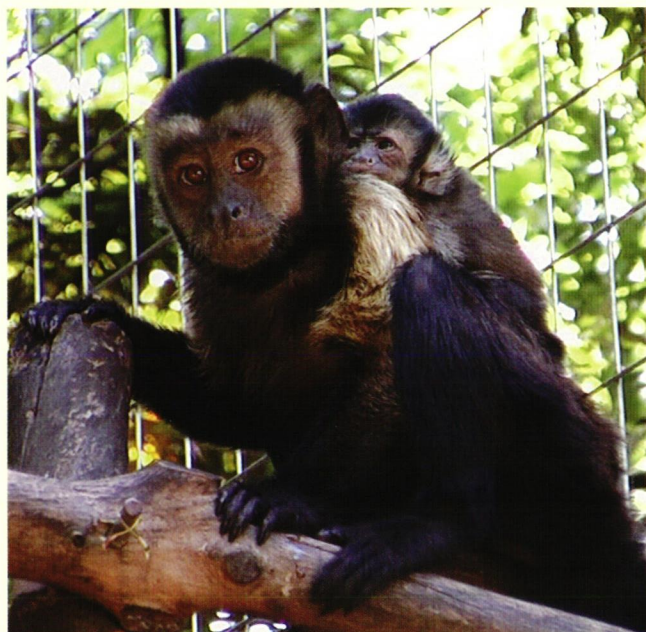
千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.53

2004

秋

フサオマキザル —フサオマキザル誕生—



2004年6月12日、動物公園に新しい仲間が誕生しました。フサオマキザルです。当園では初めての繁殖になります。

フサオマキザルは南アメリカの広い範囲に生息する中型のサルです。体重は3～4kg、尾の長さは43cm程度、全身が暗褐色をしています。とても頭が良く器用なので、介助猿としても活躍しています。当園では、そ

の才能はもっぱらイタズラに発揮されているようです。

産まれた子供は最初、母親の肩に斜めにしがみついています。10日ほど経つと、背中にしがみつくようになります。また、この頃から子供が体を動かす様子が観察できるようになりました。体をかいたり、伸びをしてみたり。屋外放飼場の高い場所にいる母親の背中でも気にせず動くので、見ているこちらはドキドキします。また、フサオマキザルは野生下では10数頭の群れで生活していて、すべての個体が子育てには積極的に参加します。父親も子供を抱くことがあります。ところが、お父さんの背中嫌なのか、子供はずっと高い声で鳴き続けています。父親は気にも止めていない様子で、あちこちへ飛び移り暴れ放題。子供が落ちるのではないかと、見ているこちらがヒヤヒヤします。

子供は生後2ヶ月も過ぎると母親から少しずつ離れ、自力で遊び始めます。このニュースが皆さんのお手元に届く頃は、ちょうどその時期です。ちょろちょろと動き回る可愛らしい姿を見に、動物公園に遊びに来ませんか。

加藤 洋子 (Yoko Kato)

目次

CONTENTS

表紙【シタツंगा】	①
トピックス【フサオマキザルの誕生】	②
園内の最近の話題	③
モモタロウ誕生会 (満4歳)	
新・動物公園ラッピングモノレール登場 !!	
サマースクール写真集	④
特別展 (JWCS 8～10月)	⑤
秋からの新イベント紹介 (紙芝居)	⑤
動物公園の植物⑤【クヌギ】	⑥
動物公園の動物【ヤク】	⑥
動物公園日誌から【'04.5/1～'04.7/31】	⑦
裏表紙【フンボルト・ペンギンの親子】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 シ タ ツ ン ガ

シタツंगाは、アフリカ西部から中部にかけて分布する小型のレイヨウである。水陸両生で、干上がらない湿地や沼などの水辺に棲む。長くて尖った広い蹄と、とてもよく動く足の関節は、柔らかくて泥の多い地面に適応している。野生では、アシ、水草、低木の葉を含むさまざまな植物を食べる。形態は、オスだけが、渦巻きのある角を持っている。動物公園では、現在メスのみ、アフリカ草原で展示していますが、オスの導入も近々予定しています。

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成16年7月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 31.Jul.2004

哺乳類	67種	400点	両生類	1種	1点
鳥類	79種	296点	魚類	0種	0点
爬虫類	5種	24点	総計	152種	721点

園内の最近の話題

モモタロウ誕生会(満4歳)



平成14年7月に、東京都恩賜上野動物園から来ました、ニシローランドゴリラの「モモタロウ」が、平成16年7月3日で満4歳を迎えました。今年は飼育係お手製の特製ケーキを用意しましたが、去年と同様



母さんの目にとまらぬうちに食べちゃお

にモモコに先に見つけれられてしまい、モモタロウは半分位しか食べられませんでした。

最近では、放飼場にあるケヤキの木に登って遊ぶのが大好きで、40kgを超える体重で枝が折れてケガをしないかと職員は心配ですが、^{たくま}逞しさが増して来たのは頼もしい限りです。



ホントは主役なのにな。去年もそうなんだ!!



新・動物公園ラッピングモノレール登場!!

平成16年7月1日、動物公園の新しいラッピングモノレールが登場しました。

今回の新ラッピングのデザインは、デザイナーや印刷業に関わる方が見る専門誌「DTPWORLD」にてデザインの募集を図った結果、64作品と多くの作品の応募がありました。これらの作品を園長以下総勢12名の選考員とプロのデザイナーによる順位付で5作品に絞込み、市民投票により最終デザインを決定しました。

市民投票では、全得票数3,169票中の約40%である1,390票もの圧倒的な支持を得て今回のデザインとなりました。

この作品をデザインしたのは、群馬県佐波郡在住の小林朝子^{ともこ}さん。

デザインするにあたって小林さんは、「自然の動物は、本当にきれいな模様をしていて、また集団でいる時の様子はとても面白く、ニコニコ笑っている感じがして楽しくな

ることがあります。そんな動物たちの姿を表現できれば……」と作品のデザインコンセプトを語ってくれました。

最後に、この新しい動物公園のラッピングモノレールを見て、少しでも明るく楽しい気分になってくれればと思います。また、これに乗って動物公園に遊びに来てくれるのを心待ちにしています。

八木 牧夫 (Makio Yagi)





第
20
回

サマースクール

平成16年7月21日(水)～23日(金)
SUMMER SCHOOL

今年は、初めての試みとしてサマースクールに応募するとき、「世話してみたい動物」の名前を書いてもらいました。人気動物No.1はアシカとペンギン。夜行性動物やキリン、バク、ゾウも人気がありました。

午前中は、飼育係といっしょに動物の部屋のお掃除、エサの準備などを体験し、午後は日ごろ見られない裏側の見学を中心に、午前中とは違うゾーンを回りました。

きょうは、やきと、みっちゃんのおんやのおそうじを
しました。やきの人や、いっしょにうんちを分け
くさかたです。そして、人やそうじがおわって
そとをうんちをしながら、またやきと、みっちゃん
おしこしたうんちを、いっしょにうんちを
またうんちをきき、いっしょにうんちを
からかりました。でもいっしょにうんち
かいてきてよかったです。
そして、そうじがおわって、やきと、
みっちゃんのうんちを、あげられて、
よかったです。

感想文

アシカにえさをあげたときに、豆魚のどが飛んでいるのがいて
えさをあげたときに、約20以上食べました。
もっと食べたそうにしています。
ほとんどのかたが上手に食べてくれてよかった。



8月1日から10月いっぱい、野生生物保全論研究会(JWCS)による特別展示が開催されています。

この研究会は、ゾウやトラ、クマ、タイマイといった日本人の生活と深いかかわりのある野生動物たちを絶滅の危機から救うために、国内のみならず国際的にも保護の活動を行っているNGOです。

今年で3回目の展示ですが、今回は画家のヒサ・クニヒ

コさんのご協力で、「象牙のハンコを買わないで!」と書かれた大きなゾウの絵が飾られています。この写真は、パネルの一部です。

秋にはワシントン条約の締結国会議が開催されます。野生動物を犠牲にして作られた商品を買わないよう、JWCSはキャンペーン中ですが、みなさんもこの特別展示をがんになり、野生動物たちの現状に目を向けてみませんか?

並木 美砂子 (Misako Namiki)



象牙のハンコを 買わないで!

野生生物保全論研究会



ではここで、サバンナにすむ動物たちにインタビューしてみましょう。
ゾウがいなくなって何か困ることはありますか?



秋からの新イベント

当動物公園では、ボランティア支援事業の一環として、今月から動物科学館レクチャールームにて「民話の集い」の皆様による紙芝居会を行うこととなりました。

開催日時は、9月11日・10月24日・11月23日・12月12日で、いずれも午前11時と午後1時30分からの2回で約40分です。

内容については、当動物公園の人気者であるゴリラのモモタロウを題材にした「ゴリラのあかちゃん モモタロウ」など動物にちなんだ紙芝居です。

この機会に昔懐かしい紙芝居をぜひご覧ください。

「民話の集い」とは、千葉の語り部であるひがき順子氏を代表に、会員数18人のボランティアグループです。主な活動として昔話や民話の語りと紙芝居を千葉市内の公共施設、幼・保育園、小学校、病院、社会福祉施設等を中心

に年間120回ほど行っています。また、国立歴史民俗博物館の特別企画展等にも参加しています。





動物公園の植物…②⑤

The plants in the Zoological park

クヌギ



クヌギは、コナラ属の落葉高木です。

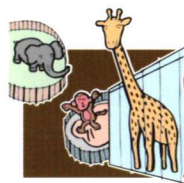
動物公園建設当時（今から約20年前）には、新しく植えたものと、元々自生していたものがありましたが、建設に支障になったクヌギの大多数は園内に移植し、現在では高さ15mになり幹周りも1m60cmと立派に育っており、皆様の憩いの場を提供しております。園内には、新旧合わせて110本のクヌギが植栽されています。

クヌギは山地に生えて高さが15mほどになり、樹皮は灰褐色で厚く縦に不規則な裂け目が数多くあります。葉は互生して長さ7cm～15cmの長楕円状披針形をしています。ふちには、針状の鋸歯のこぎりばがあって、4月～5月に本年枝ほんねんしの下部から大褐色で7cm～8cmの雄花序を垂らし、上部に雌花をつけます。花は決して派手ではありません。堅果は翌年の秋に成熟して、直径約2cmになり、この種では大型の実の方です。下半部は椀形の殻斗こくどうに包まれています。

分布は、本州・九州・四国、アジアの東北部です。

用途は、公園樹の緑化材として植栽に使用されます。又、シイタケの原木として使用され、11月頃伐採し、1月下旬～2月中旬頃シイタケ菌のコマを打ち、1年半後にシイタケが収穫されます。他に器具材・薪炭に使用されます。

染谷 正仁（Masahito Someya）



動物公園ニュース

（動物公園の動物）

ヤク

家畜の原種ゾーンのほぼ中央に展示している角の大きなウシ科の動物が今回紹介するヤクです。ウシと言っても皆さんが想像するウシとはずいぶん違う形、色をしていると思います。

動物園で飼われているヤクは家畜のヤクで、雄で500kg、雌で300kgぐらいです。

それに比べて野生ヤクは体が非常に大きく、雄で800～1,000kg、雌でも400～500kgも体重があります。

このヤクは、世界で最も標高の高い場所に生息しているウシで、野生のものは標高4,000mのチベット高原の冰雪砂漠などに生息していましたが、現在では野生ヤクは殆ど発見されなくなりました。しかし、標高2,000mの高冷地で生活するチベットの人々は、野生ヤクの高冷地での適応性をいかし、徐々に家畜化し、生活に欠かせない動物として飼っています。

ヤクの最大の特徴は、厳しい高冷地で生活していく為、腹部は地面までつく長い毛で覆われ、頭にもふさふさした毛があります。又、険しい山道などを歩き回る為、足が短く、がっしりしています。家畜化されたヤクは、乗用や荷役用として山道で150kgもの荷物を積んで運べると言われています。乳は、脂肪率6.5%と栄養価に富んだ食品で、飲用としたりバターの原料としても適していて、毛はウールの織物やロープの原料に、皮は服に又、糞は乾燥させて火を燃やす燃料に利用されます。このように、チベットの人々には全くムタのない働き者の家畜ヤクですが、千葉市動物公園では暑さの為か、そのような働き者の姿をお見せすることなく、日陰に入り、1日中寝ていることが多いようです。ご覧いただく時は、どうか、働き者ヤクの姿を想像して見てあげてください。

古谷 保生（Yasuo Furuya）





動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

’04年5月1日～’04年7月31日

- 5月3日 ケリの卵の保護を受けて孵卵器に入れる
- 5月5日 アビシニアコロプス（キクユ、仔）、遊具に足をはさみ骨折、入院
- 5月6日 トナカイ（雌）、採血
アビシニアコロプス（キクユ、仔）、退院
ヘビクイワシ（雛）、行方不明
- 5月8日 アビシニアコロプス（キクユ、仔）、親から離れず、母親の口から餌を少し食す
- 5月10日 アフリカヘラサギ（2羽）、ギンケイ（1羽）、孵化
- 5月13日 山形県内中学校職場訪問
- 5月17日 グレピーシマウマ（雄1、雌2）、ペアリング マウントするが交尾にはいたらず
ショウガラゴ（1頭）、チンチラ（1頭）、繁殖
ムフロン（雄1）、耳標をつける
- 5月19日 ショウガラゴ（1頭）、繁殖
- 5月20日 モウコノウマ、交尾
ケツメリクガメ（1頭）、千葉東警察よりの依頼で預かる
- 5月23日 マンドリル室内にヤマモモの木を入れる
アジアゾウ（雄）、左右側頭腺より分泌あり
- 5月24日 モウコノウマ、日本脳炎予防接種
- 5月26日 シロガオマーモセット（2頭）、繁殖
- 5月28日 ケリ（3羽）、孵化
ルーセットオオコウモリ（1頭）、繁殖
市内中学校1校職場体験実習
- 5月29日 ケリ（1羽）、孵化



- 5月30日 羊の毛刈りと紡毛教室
- 6月1日 キングペンギン、産卵（1卵）
- 6月4日 ワタボウシパンシェ（1頭）、搬出
- 6月7日 グレピーシマウマ、日本脳炎予防接種
- 6月8日 ハシビロコウ、TV取材
- 6月12日 フサオマキザル、繁殖
クロミミマーモセット、繁殖
- 6月13日 ニホンザル、繁殖
- 6月15日 ニホンザル、繁殖
- 6月19日 ワタボウシパンシェ（2頭）、繁殖
- 6月22日 ミナミコアリクイ（雌1頭）、搬入
- 6月23日 市内中学校1校職場体験実習
- 6月25日 カリフォルニアアシカ（1頭）、繁殖



ミナミコアリクイ

- 6月26日 ヒロハシサギ（2羽）、繁殖
ZOOキッズデー開催
- 6月30日 フサオマキザル、雄が20分くらい仔を背負う
- 7月2日 ファンボルト・ペンギン（雛）、初めて泳ぐ
- 7月3日 ゴリラ「モモタロウ」、4歳誕生会開催



- 7月5日 マレーバク（雌1頭）、安佐動物公園へ繁殖用貸与で搬出
- 7月6日 市内中学校1校職場体験実習
- 7月7日 市内中学校1校職場体験実習（8日まで）
- 7月16日 シロガオマーモセット（2頭）、繁殖
- 7月17日 チンパンジー、竹の中にレーズンを入れて与える サンタ（雄）以外、割って食べる
- 7月19日 カピバラ（4頭）、オグロマーモセット（1頭）、繁殖
- 7月21日 第20回サマースクール開催（23日まで）
ミナミコアリクイ（雌1頭）、展示開始
- 7月24日 ピグミーマーモセット（2頭）、繁殖
- 7月26日 アジアゾウ、寝室工事のため本日より夜間パドックに収容
- 7月28日 アジアゾウ（雄）、左右側頭腺より分泌物左右とも流れている
浅野 洋之（Hiroyuki Asano）

編集後記

暑い暑い夏もようやく終盤に入り、当動物公園の動物たちも、やっと元気を取り戻しつつあります。年々暑さが増しているような気がします。豪雨により、被害を受けた方々には一日も早く、元の生活に戻れますよう、心からお祈り致します。

なお、次回発行は12月1日です。

名和 全孝（Zenkou Nawa）



フンボルト・ペンギンの親子



Information

平成16年10月・11月の 催し物一覧

- ★ 10月10日(日) 折り紙教室
- ★ 10月11日(月) ゆかいな森の音楽会
- ★ 10月17日(日) 連続講座「古代のウマ」
- ★ 10月23日(土) ワンポイントウォッチング(アシカ)
- ★ 10月30日(土) 秋のZooクイズラリー
- ★ 11月13日(土) 連続講座「江戸時代の暮らしと動物」
- ★ 11月28日(日) バルーンアートショー